

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790300044		
法人名	医療法人社団 まえだ整形外科外科医院		
事業所名	グループホームパンジー		
所在地	香川県坂出市京町3丁目6番56号		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町受理日	令和5年3月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有料老人ホーム・デイサービスを併設した五階建て複合施設です。社会福祉法人の特別養護老人ホームが敷地内に隣接し、坂出市中心部に位置し非常に立地条件に恵まれた環境である。近くに関連医療機関があり、連携体制が整えている。また、入居者様の状態変化により、グループホーム、有料老人ホーム、特別養護老人ホームと連携を取り、ご本人様、ご家族様のご意向を出来る限り尊重し柔軟な対応を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は駅や役所・商店などが集まる地域にあり、交通のアクセスが良い。5階建ての複合施設の中の1階・2階の部分に位置している。近隣は福祉施設や医療機関があり、健康管理や受診・介護を受けるには安心な環境にある。利用者は近在の住民が多く、長い間住み慣れた地域での生活が継続できている。利用者は誠実でチームワークの良い職員に支えられて、自宅のようにゆっくりと過ごしている。利用者一人ひとりが自分の出来ることや、やりたいことに取り組めるような支援が心掛けられている。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111		
訪問調査日	令和5年2月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールの分かりやすい所に掲示している。理念を理解し、毎日施設全体の朝礼の時に唱和している。理念「感謝と優しさ、思いやりのあるケアで笑顔のある生活を提供しよう」	毎朝施設全体で朝礼を行い、理念が唱和されている。事業所の代表者は全体の理念を基に事業所ごとの目標を設定し、職員と共に共有して実践に当たられている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域とのつながりは図れていないが、地域の作品展に作品を出展している	コロナ禍で外部との交流が制限されている中で、作品展は再開されている。月一作品のペースで利用者と職員が合同作品を手作りをして、発表の機会も持たれている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェを月一回開催しているが、コロナ禍であり、色々な制限のため地域の方たちに向けて活かしているとまでは至っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であり、運営推進会議は開催できていない。2か月に1度、事業所の活動報告や事故報告書を施設業務改善会議にて報告	外部の代表を招いての運営推進会議は出来ない中で、内部の職員で施設業務改善会議を開き、そこで話し合われた事、事業の報告や現状等が定期的に行政に報告されている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議について、市の担当者に事業所の実情や取り組みを伝えている	事業所の近くに役所があり、適宜、事業所の取り組みや実情を報告したり相談がなされている。地域との交流なども受け入れて、協力関係が築かれている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は、身体拘束をしている利用者はいない。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。安全防止の為、サッシの施錠、夜間玄関の施錠を行っている	身体拘束については定期的に研修会や勉強会を開き、理解が深められている。安全対策として外へ出にくくしている個所等があるが、利用者や家族の了解、理解が得られている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢虐待防止について、心身的だけでなく、精神的の虐待もないよう、意見交換し、職員の意識を高めている。職員間でも発言等気を付け注意、話し合いを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用している方はいないが、家族背景等の把握をし、必要性や制度への理解をし活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を設け、利用者、ご家族に一つ一つ丁寧に説明し、ご理解して頂けるよう心掛けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、いつでも意見、要望を聞けるようにしている。面会時に積極的に声かけ、意見、要望の聞き取りに努めている	意見箱が設置されている。また、利用者や家族等接する機会を利用して、積極的に意見や要望が聞き取られ、上がった意見や要望は会議や職員間で早急に話し合い運営に反映されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時に気付いた事は、その都度連絡報告し、話し合っている。職員の気づきアイデアを運営に取り組むようにしている	毎朝の申し送り、連絡事項等で気付いたことは、直ぐに話合われる風土が築かれている。職員が少人数故に何でも話し合えるメリットを活かし、職務に反映されるよう努められている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望は希望通り取得できている。有給休暇についても可能な限り取得できるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた指導をし、通常の業務の中で配置やシフトの組み合わせによって他職員から学べるように工夫し、総合的にスキルアップできるようにしている。又、勉強会も実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、グループホーム連絡会は行われていない。自施設でのサービス向上を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困りごと、不安ごと、要望等を寄り添い傾聴する事で、安心して生活が送れるように努めている。入所後は、本人と話す機会を出来るだけ多く持つようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、家族から希望や不安な事を聴取するようにしている。近況報告をしたり面会時には施設での様子をお伝えし信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを大切に、適切な支援が行われるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに協働しながら、寄り添い、ともに過ごし支えあえる関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の様子や出来事を報告し、本人の生活歴を伺いアドバイスを受けている。本人と家族がより良い関係が保たれるよう家族本人への思いを傾聴して共に本人を支えあう関係づくりをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍もあり、自由にならないこともあるが、利用者や家族の思い出話を傾聴し、関係が途切れないように支援に努めている	コロナ禍で外出や行き来が制限され直接会って話す機会が少ないので、より利用者や家族等の思いを聞き取り、関係が途絶えないよう丁寧な支援がなされている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの生活を把握し、利用者同士コミュニケーションがとりやすい雰囲気作りや声かけを行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、その後の経過を見守り、必要に応じて話し相手や相談相手に努め支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、日常生活の会話、表情、本人からの希望、意向の把握に努めている。家族様からも情報を得たり、職員間で情報を共有している	日々の暮らしの中での会話や言葉遣い表情などからも利用者の希望や意向が把握されている。また、家族等からの聞き取りや職員の気付きなども含め、職員間で情報が共有されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、ご家族から生活歴や趣味・職歴など聞き取り、職員間で共有しサービス利用に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを把握し、出来る力を暮らしの中で発見出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族・関係者から聴取したり話し合いを行い、ミーティングや職員会議で意見交換やアイデアを出し合い、反映しているように努めている	担当者が介護計画を3か月ごとに見直し、計画書が作成されている。本人や家族等の意向、医療関係者の意見、職員同士の意見やアイデア等が取入れられている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子を、表情や言葉などいつもと違う変化があれば細かく記入し、職員間で情報を共有し介護計画書につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の要望に応じて、その都度柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化祭に作品を出展する事で地域とのつながりを持ち、豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療を受診できるが、入居前のかかりつけ医を利用し、適切な医療を受けられるようにしている	入所時にかかりつけ医の希望を聞き、かかりつけ医と事業所の連携により、適切に医療が受けられるよう支援されている。協力医療機関の医師の往診もあり、医療を受けられる体制となっている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化や気付いた事は、その都度看護師に連絡し、速やかに適切な医療を受けられるよう医療連携支援体制が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を医療機関に提供し、情報共有を行っている。医療ソーシャルワーカーや家族と連絡をとり、主治医の指示を仰ぎながら早期治療、早期退院になるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針を作成して、入居時の契約の際、事業所で対応できる範囲を説明している。その後、状態変化した時は、再度確認している	入所時に、重度化した場合の事業所の対応について説明して意向が確認されている。状態の変化に伴い意向の確認を何度も行い、医師の判断や本人・家族等の希望により看取り介護も行われている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の講習を受講し、緊急時に備えている。マニュアルを作成し、常に話し合っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行い、地震を想定した津波対応の訓練やマニュアルにて利用者が安全に避難できるように取り組んでいる。災害時の食料や水を備蓄し、スタッフ間で話し合いを行っている。	年2回は近隣の事業所と共に防災訓練が行われている。訓練は地域の自治会関係者等にも呼びかけている。災害時の備蓄も高い、安全な場所に保管されている	医療機関や総合的な高層の事業所があり、利用者の避難も可能と思われます。日頃の災害の訓練支援などを通じて、さらに地域の安全拠点となることに期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重し、プライバシーを損ねないさりげない声掛けや気配りにて対応している	プライバシーの確保については一人ひとりの要望も聞き配慮がなされている。また、個別の人として声掛け・気配りを行い、さり気ない対応が心掛けられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や態度などを見極めて、個々に合わせた声掛けをし、選択肢を提示し自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に配慮しながら、一人ひとりのペースを大切に、訴えや希望を配慮した支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれ出来るように、一人ひとりの個性にそった支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞き取り、食べる事への楽しみを持てるようにしている。利用者状態に合わせた形態・盛り付けを行っている	主食や汁物はユニットで作り、副菜は調理場で作る事が多い様子である。献立は嗜好にも配慮されており、ゆっくりと食事に時間も取られている。おやつも手作りの物にしたり、場所を変えたり、喫茶を楽しまれるなど工夫がなされている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を記録把握し、情報を共有している。一か月に一回給食委員会にて献立・食材などについて意見交換を行っている。食事量低下の利用者には補助食品・栄養指導を受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり声かけし、誘導・介助を行っている。必要な利用者は、訪問診療による口腔状態の観察や口腔ケアを、週一回実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子や排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。利用者の仕草・落ち着かない様子などのサインを読み取り支援している	排泄のチェック表から排泄の間隔を知り、トイレ誘導やサインを読み取り、さり気ない声掛けや支援が行われている。取組みの成果か、利用者自分から発信して支援を依頼される方もみられてきている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表を作成し、排便の状況を把握している。脱水予防に努め、水分補給を積極的に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調、希望やタイミングに合わせて、声かけ誘導など個別に対応している。拒否される方は再度声掛けしたり、利用者に添った支援を行っている	個浴は2日に1回の実施を目指し、希望が聞き取られている。特浴は週2回になるが、どちらも体調やタイミングが合わないと、再度声をかけするなど、本人の都合に合わせた支援が心掛けられている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々の生活習慣や希望により、自由に休息出来るようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、Wチェックで服薬確認を行い、飲み忘れや誤嚥防止も取り組んでいる。職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更時は看護師から説明があり、症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴、役割を把握し、毎日の暮らしが楽しみや生きがいをもって過ごして頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出、遠出等は行っていない。園庭を見たり施設内を散歩し気分転換を図っている	コロナ禍で、外出や行楽は自粛されている。ベランダやウッドデッキで外気浴をしたり、施設内を散歩するなど代替支援にて気分転換や体力維持が図られている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の重度化と共に、現在お金を管理している方、使用している方はいない。本人の希望に応じ対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者・ご家族の要望がある時、電話のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節に合った壁紙づくりや、季節の花を飾ったりしている。畑に季節の実のなる木々を植え、季節を感じている	カウンターキッチンがある食堂・居間は明るい雰囲気、壁面には合同作品や手作りの装飾品も掲示されている。階下にホームシアターがあり映画やビデオ鑑賞も出来るようになっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを置き、少人数でもくつろげるような工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物や思い出の写真など持って来て頂いている。快適に過ごせるような工夫をしている	備品としてベッドとタンスがあり、使い慣れた私物の家具やTVなどをそれぞれ持ち込み、写真やカレンダー等を飾るなど、心地よい空間づくりがなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を行い生活の中で、出来る事は見守り可能な限自立した生活が送れるように心掛けている。トイレや自分の居室が分からない利用者の為に目印になるものを設置している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールに掲示している。毎日施設全体で、朝礼の時に唱和している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、以前行っていた近隣等の散歩は行っておらず、園庭での散歩をしている。同施設の入居者様との挨拶を交わし、ふれあいを大切にしている
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり、地域との方との交流は控えている。状況が落ち着けば地域との人々に向けて地域貢献していきたい
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議をリーダー会場で実施。利用者の近況を報告し、参加者から身近な社会資源の情報を教えて頂きサービス向上に努めている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点、困りご事があれば連絡をとり相談を行っている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	二階にあるため、安全の為玄関には施錠している
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について勉強会での話し合いや毎日の申し送りなどでしている。言葉の言動、虐待について職員同士で話し虐待になっていないか話している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がある時は、学び、成年後見制度の勉強は怠っていない
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族と十分な時間をとり説明を行い、理解、納得を図っている。不安や疑問点を遠慮なく言いやすい雰囲気にならしている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、面会の時に声かけし、ご利用者の状況を報告するなど、苦情や県が言いやすい環境作りをしている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング時に意見を聞くようにしている。職員の意見や提案を運営に反映できるよう努めている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休は休みを取るよう調整している。職員がリフレッシュでき、やりがい等各自が向上心を持って働きやすい環境作りを努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた指導をしている。又他の職員より、学びスキルアップにつなげている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり交流は現在中止している。状況が良くなれば再開したい

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族から不安な事や要望を傾聴し、安心して生活が出来るような関係作りに努めている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時、ご家族から入居前の様子や生活歴、不安な事、要望を聴取するようにしている。入居後も近況を報告し、話し合い信頼関係が築けるようにしている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向をしっかりと把握し、適切なサービスが受けられるように努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする同士として教え合い、励まし合って生活できるように共に支え合っている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で本人様の状態を伝えながらご家族からのアドバイスを受けている。ご家族の思いをお聞きして共に支え合う関係を作っている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと馴染みの場所の写真や知人との交流が途切れないように面会、電話等の手段をとり支援に努めている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用同士のトラブルには十分に気を付け職員が間に入り、自然な人間関係が出来るようにしている。ご利用者が孤立しないような支援に努めている
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、今までの関係を維持し、気軽に相談できる環境作りに努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や行動から一人ひとりの思いや希望を傾聴し、ご利用者がしたい事、やりたい事を重視している
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報収集を行い今までの生活が出来るように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム、心身状態を把握し、出来る事は日常生活の中で活かせるように努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様から聞き取り、話し合いを行い、職員会議等で検討し、ご利用者がよりよく暮らすための介護計画書を作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やいつもと違う変化があれば、記録に記入し、申し送りをし、情報を共有して介護計画につなげている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に応じて対応できるように柔軟な支援やサービスを行っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や介護相談員等の方に社会資源を聞き取り、安全で豊かな暮らしが出来るようにしている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望されるかかりつけ医に受診される方、協力医療機関の訪問診療を受診される方がいる。かかりつけ医の受診にはご家族が付き添われることが多いが、情報を共有し適切な医療が受けられるようにしている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、状態の変化や気付いた事は看護師に報告し、適切な医療や看護が受けられるように支援している
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者との連絡を密に行い、早期に退院できるよう関係作りをしている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所に対応できる範囲を説明している。その状態が変化した時に、ご本人やご家族等と話し合い、方針を決めている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開き、心肺蘇生法、応急手当の方法などについて職員全員が対応できるようにしている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、防災訓練を定期的に行っている。利用者にも参加して頂き安全に避難できるように取り組んでいる。災害時、非常食や水を備蓄している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり、言葉遣いや態度に気を付けプライバシーを損ねないよう対応している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの表情や思いなどを見極めて日常会話の中で、自己決定できるように支援している
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを大切にし、その日の体調に配慮し、訴えや希望にそった支援をしている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の協力もあり、季節や気温に合った服装、おしゃれができるように気を付けている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞き取りして食べられないものは他の物を用意して食べて頂いている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を個々の状態に合わせて対応している。食事摂取量を毎食ごとに記入し、バランスよく食事をしてもらうように声掛けしている。食事量の少ない人、体重減少の方には栄養指導のもとメイバランス等で補っている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔ケア声掛け、誘導しその人に合わせたケアを実施している。口腔内や義歯の状態を確認し、必要な利用者には訪問歯科による口腔ケア、指導をもらっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作り利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。また利用者の把握のサインを見逃さないようにし、トイレでの排泄を支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表で管理し、排便チェックを行い、排便の状況を把握している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別にその日の体調や希望に合わせて声掛け誘導し対応している。状況によってシャワー浴、清拭を行い清潔の保持に努めている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に合わせて個々の生活習慣を大切に、自由に休息出来るように支援している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成。二人体制で服薬確認を行い、飲み忘れや誤薬防止に取り組んでいる。薬の変更時は看護職員より説明があり症状の変化を確認している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしに生きがいや喜びとなるように日々の暮らしの中での役割をみつけ料理や掃除など出来る限り手伝ってもらっている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら、個々に声かけし施設園庭を散歩している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を自己管理できる人は1名おりません。家族の理解、本人希望により所持されている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙や電話のやり取りを支援している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の掲示板にはご利用者の塗り絵は折り紙、季節に合わせた作品を飾っている。また、トイレが近い為、消臭剤を使用し不快な臭いが出ないように心掛けている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いにくつろげるようにソファを置き好きな所で過ごせるようにしている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れている家具、布団等を持って来て頂いている。本人様が居心地よく、快適に過ごせるよう環境を整えている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事、わかることを把握し、生活のお中で出来る事は見守り、わからなくなることは文章にしたり絵で表現して目で訴え、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している